

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2015 年 12 月 8 日 (火) 1 限 実施
後期② 考査
千葉県立長生高等学校 第 3 学年 全組
Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。
- 6 センター過去問演習参加者は明日までにマークシートを社会科研究室前のボックスに提出のこと。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 次の文章を読み下の問い(問1~問8)に答えよ。(配点 26)

ブッダの死後、紀元前3世紀の(a)アショーカ王のころ、仏教教団は(b)保守的な上座部と進歩的な大衆部とに分裂した。以後両派は分派をかさね、結局約20の部派が並立することになった。これを部派仏教とよぶ。部派仏教は、出家し、きびしい戒律を守って修行し、[1]を理想として自分一個の悟りをもとめることを重視した。

これに対して、紀元前1世紀ごろから、一般民衆ならびにその指導者であった説教師の間で、自分の悟りをもとめるという自利とともに[2]の利他行を重んじ、広く一切の衆生の救済を目指して献身する(c)菩薩を理想とする運動がおこった。彼らは、みずからの教えを、大衆を救う大きな乗り物ともいうべき教えであるとして、大乘仏教と名づけた。

大乘仏教においては、ブッダはかぎりない知恵と慈悲とをもって一切の衆生を救おうとする絶対者であるとともに、人間はまだめざめぬブッダにほかならないという考え方が成立した。ここから、一切の衆生はブッダ(仏)となる可能性としての仏性を備えているとする[3]の思想や、迷いの身であっても発心さえすれば仏となることができるとする(d)即身成仏の思想などが生まれた。そして菩薩の実践すべき徳目として(e)六波羅蜜が説かれた。

この大乘仏教の発展に大きく寄与したのがナーガールジュナ(竜樹)とアサンガ(無著)・[4]兄弟である。(f)ナーガールジュナは空の思想を展開し、一切の事物が空であること、すなわち(g)固定的な実体をもたないことを、さまざまな角度から論じた。これはブッダの縁起の思想を論理的に展開したものといえる。また、アサンガとその弟は、[5]の思想を形成した。

部派仏教は、スリランカや東南アジア諸国に伝えられ、大乘仏教は中央アジアをへて中国、朝鮮へと伝えられた。紀元6世紀に日本に伝えられたのもこの大乘仏教である。インドでは、[6]教がさかんになるとともに、13世紀にはイスラームが進出してきたため、以後仏教は急速におとろえた。

問1 文章中の空欄[1]~[6]に入る最も適当な語を、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

[1] [① 阿修羅 ② 阿弥陀仏
 ③ 成仏 ④ 阿羅漢

[2] [① 慈悲 ② 輪廻
 ③ 渴愛 ④ 解脱

[3] [① 瑜伽行 ② 阿耨多羅三藐三菩提
 ③ 見性成仏 ④ 一切衆生悉有仏性

[4] [① アーナンダ ② ラーフラ
 ③ ヴァスバンドゥ ④ ウパーリ

- [5] [① 如来蔵 ② 密教
 ③ 唯識 ④ 俱舎

- [6] [① ゴロアスター ② シーク
 ③ ヒンドゥ ④ ジャイナ

問2 下線部(a) に関して、アショーカ王の時代の出来事として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[7]

- ① 仏像が作られるようになった
- ② 仏典結集が行われた
- ③ 大乘仏教が始まった
- ④ ウパニシャッド哲学が始まった

問3 下線部(b) に関して、分裂の原因とされていることとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8]

- ① 律蔵の解釈の相違
- ② 経蔵の解釈の相違
- ③ 論蔵の解釈の相違
- ④ 救済できる人数の相違

問4 下線部(c) に関して、菩薩についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[9]

- ① 修行者の達する究極の境地
- ② 人々から尊敬を受ける資格のある人
- ③ 悟りを目指す人であり、仏陀の前段階にいる人。
- ④ 修行をやめた仏

問5 下線部(d) に関して、密教についての説明として**適当でないもの**を①～④のうちから一つ選べ。[10]

- ① 自己を非公開的な教団の内に閉鎖し、秘密の教義と儀礼を師資相承によって伝持しようとする秘密仏教。
- ② 世界を宇宙的な仏、マハーヴァイローチャナの内実をマンダラ(余すところなき総体の意)とみる世界観を図絵マンダラとして表現する。
- ③ 戒定慧の三学や、四禪八定の体系は、いずれも他のインド宗教がもつ禅の苦行や、神秘的な昇天の側面を否定し、禅定による自覚的な悟りの方法を示す。
- ④ 三密加持、すなわち、自己の身体的動作によって諸尊の動作を模し、口にそれらの真言を誦し、意にそれらを象徴する形象を観想し、かくて自己を仏の世界の一個の象徴と化することによって即身成仏をはかる。

問6 下線部(e)に関して、六波羅蜜の項目として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[11]

- ① 持戒 ② 無明 ③ 智慧 ④ 禪定

問7 下線部(f)に関して、ナーガールジュナの著作名として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[12]

- ① 俱舍論 ② 般若無知論 ③ 瑜伽論 ④ 中論

問8 下線部(g)に関して、空の本質を表す言葉として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[13]

- ① 声聞 ② 阿頼耶識 ③ 無自性 ④ 如来蔵

第2問 次の文章を読み下の問い(問1～問6)に答えよ。(配点 16)

中国の思想は、古代封建国家の周が崩壊し、春秋・戦国時代になると多様に花開く。特に仁と礼を説く儒家と[14]を説く道家の思想は、現代にいたるまでの中国社会の思想伝統を形成すると同時に、日本や東アジアの思想形成にも大きな影響を与えている。

[15]を滅ぼした(a)周王朝は、王(天子)の下に血族を諸侯として封じ、土地を世襲させる[16]を確立した。しかし春秋時代の末期にいたり、その[16]が崩壊し始めると、諸侯はそれぞれ富国強兵に努め、国の秩序安定をはかるために、広く思想家や政治家を世にもとめた。これに呼応してあらわれたさまざまな思想家たちを総称して諸子百家という。(b)陰陽家、儒家、(c)墨家、名家、(d)法家、道家、縦横家、雑家、(e)農家など、それぞれ多彩な思想活動を展開した。

問1 文章中の空欄[14]～[16]に入る最も適切な語を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[14] [① 法治主義 ② 無為自然
 [③ 礼治主義 ④ 自然法爾

[15] [① 夏 ② 秦
 [③ 殷 ④ 漢

[16] [① 神政政治 ② 封建政治
 [③ 神権政治 ④ 王道政治

問2 下線部(a)に関連して、周代に生み出された占いについての記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[17]

- ① 判断を甲骨に刻みつけ、占いの対象について実際に起きた結果が追記された。その際に使われた文字が甲骨文字である。
- ② 筮竹を操作した結果、得られる記号である卦は「爻」と呼ばれる横棒によって構成されている。
- ③ 生まれた年、月、日、時、の四つ干支を柱とし、その人の生まれ持った可能性を推し量るものである。
- ④ 対象となる者に、神に潔白などを誓わせた後、釜で沸かした熱湯の中に手を入れさせ、正しい者は火傷せず、罪のある者は大火傷を負うとされる。

問3 下線部(b)に関して、陰陽五行についての次の記述の空欄[18]に入る語として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

土気から生じる[18]気は、方位では西、季節では秋、白がその色をあらわす。

- ① 木 ② 金 ③ 火 ④ 水

問4 下線部(c)に関連して、次の墨子の思想についての記述の空欄[19]に入る最も適切な語を、次の①～④のうちから一つ選べ。

「 [19] 」には別れているものを一つに合するという意味がある。「別」はその反対である。墨子の時代には、周代の政治秩序はすでに没落解体の途上にあったが、まだ遺制としてかなり根強く生き残っており、世襲的な貴族の身分制、つまり「別」（差別構造）が社会進歩のガンになっていた。墨子はこういう血族の制約を乗り越えて、身分差のない「 [19] 」 （共同体）の社会を作る必要があると説くのである。

- ① 礼 ② 義 ③ 仁 ④ 兼

問5 下線部(d)に関して、韓非子の言葉の中の空欄[20]に入る語として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

明君がおさめる国家では、聖人の道を説く経典（詩経や書経など）は見当たらず、人々は [20] のみを経典とする。古代聖王（堯や舜など）の言葉を師とは仰がず、官吏だけを教師と仰ぐ。

- ① 罰 ② 礼 ③ 法 ④ 徳

問6 下線部(e)に関連して、農家の思想家として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[21]

- ① 許行
② 鄒衍
③ 孫子
④ 恵施

第3問 次の文章を読み、下の問い（問1～問5）に答えよ。（配点 18）

孔子の生まれた魯の国は、理想的人物とあおがれた [22] のたてた国であった。孔子は若いときからこの [22] にあこがれ、その理想の政治のあり方を [22] に見いだしている。そして彼は、社会秩序を実現するには、「これを導くに政を以てし、これを斉うるに刑を以てすれば、民免れて恥なし。これを導くに [23] を以てし、これを斉うるに礼を以てすれば、恥ありて且つ格し」と考え、刑罰をともなう法律による法治主義をしりぞけた。為政者みずからが、まず道徳的体現者である [24] たることを目指し (a) 己を修め、その感化によってこそ人を治めること（修己治人）ができると考えたのである。

また『論語』に「怪力乱神（怪しげな力や神秘）を語らず」とあるように、孔子は神秘的なものに積極的な関心をもたなかった。また「いまだ生を知らず、いづくんぞ死を知らんや」と、あえて死の問題を語ろうとしなかった。もっぱら孔子の関心は「朝に [25] を聞かば、夕に死すとも可なり」とまでいった [25] にあった。

孔子は心のもち方としての仁と、(b) 形としての礼の二つの側面からとりあげている。心のもち方としての仁は、孔子自身もさまざまなかたで説き、弟子たちもさまざまに解釈しているが、それはまず何よりも「人を愛すること」である。「[26] なるものは、それ仁の本なるか」というように、仁は親子・兄弟の間に自然に発する親愛の情として示されるものであり、それをさまざまな人間関係におしひろめていくことであった。孔子が他人に対する心のもち方として説いたことは、(c) 人の心を思いやることであつた。それは具体的には、自分にしてほしくないことは他人にもしないようにすること（「己の欲せざるところは人に施すことなかれ」）であり、自分がそうありたいことがあつたら、まず人にそうあらしめること（「己立たんと欲して人を立て、己達せんと欲して人を達す」）、などであつた。そしてさらには、常に自分を欺かず、まごころから人に接して人を欺かないことなどがもとめられた。このような心のもち方は、すべて仁をなす心のもち方であり、人間はいついかなるときでも、心に仁を守るべきであると説いている。

問1 文章中の空欄 [22] ～ [26] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- | | | |
|------|-----------------|----------------|
| [22] | [① 周公旦
③ 舜 | [② 禹
④ 堯 |
| [23] | [① 義
③ 徳 | [② 礼
④ 仁 |
| [24] | [① 君子
③ 大丈夫 | [② 真人
④ 小人 |
| [25] | [① 道
③ 無 | [② 仁
④ 法 |
| [26] | [① 礼智
③ 孝悌 | [② 忠信
④ 忠恕 |

問2 下線部(a)に関して、大学の八条目のうち「治人」にあたるものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[27]

- ① 平天下 ② 格物 ③ 誠意 ④ 修身

問3 下線部(b)に関して、次の論語の引用文中の空欄 [28] に入る語として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

顔淵仁を問ふ。子曰く、[28] に克ちて禮を復むを仁と為す。一日 [28] に克ちて禮を復めば、天下仁に帰す。

- ① 人 ② 己 ③ 悪 ④ 我

問4 下線部(c)に関して、人の心を思いやることをあらわす語として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[29]

- ① 忠 ② 恕 ③ 信 ④ 智

問5 次の論語の引用文中の空欄に入る語として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[30]

子曰く、吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして [30]。

- ① 矩をこえず ② 耳したがう ③ 天命を知る ④ 惑わず

問2 下線部(a)の四端に関する説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[38] (2005年センター追試験より)

- ① すべての人に、他人の不幸を憐れむ心、善悪を見分ける智という心などといった四端が内在している。人は、このように自己に内在する本性を心の底から信じて、それをそのまま発揮することで善を実現できる。
- ② すべての人に、他人の不幸を憐れむ心、善悪を見分ける心などといった四端が生まれながらに具わっている。これらは仁・義・礼・智という四徳の芽生えであり、この四端を押し広げていくことで人は善を実現できる。
- ③ すべての人に、他人の不幸を憐れむ心、善悪を見分ける心などといった四端が不完全な形で具わっている。人は、後天的な努力でこの四端を矯正していき、仁・義・礼・智という四徳を実現していかなければならない。
- ④ すべての人に、他人の不幸を憐れむ心という心、善悪を見分ける智という心などといった四端が生まれながらに具わっている。人はこの四端を拡充し、惻隠や辞讓といった四徳へと向上させていかなければならない。

問3 下線部(b)に関して、浩然の気についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[39]

- ① 心に満ちる意識の心理作用
- ② 天地間に満ちている強い道徳的勇氣
- ③ 凝固して可視的な物質として万物を構成する要素
- ④ 万物を形づくり、それに生命、活力を与えるもの

問4 下線部(c)に関して、儒学の説く「五倫」の内容として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。[40]

- ① 父子の孝、君臣の義、夫婦の別、長幼の悌、朋友の信
- ② 父子の孝、君臣の忠、夫婦の礼、長幼の悌、朋友の敬
- ③ 父子の親、君臣の義、夫婦の別、長幼の序、朋友の信
- ④ 父子の親、君臣の忠、夫婦の愛、長幼の序、朋友の敬
- ⑤ 父子の仁、君臣の義、夫婦の礼、長幼の智、朋友の信
- ⑥ 父子の仁、君臣の忠、夫婦の愛、長幼の智、朋友の敬

問3 下線部(c)に関して、朱子の著作として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[47]

- ① 四書集注 ② 本朝通鑑 ③ 孝経 ④ 春鑑抄

問4 下線部(d)に関して、王陽明の著作として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[48]

- ① 近思録 ② 翁問答 ③ 伝習録 ④ 集義和書

問5 下線部(e)に関して、理につつしみ従うことをあらわす語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[49]

- ① 窮理 ② 格物 ③ 居敬 ④ 致知

問6 下線部(f)に関して、善悪を判断する能力を意味する言葉として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[50]

- ① 惻隱 ② 辞讓 ③ 四端 ④ 良知

これで問題は終わりです。